

佐野君、川口さん最優秀賞

作文コンクール県審査

第69回全国小・中学校作文コンクール（読売新聞社主催）の県審査が26日、甲

府市宝の読売新聞甲府支局で行われ、各部門の最優秀賞が決まった。小学校高学年の部は身延町立身延小5年の佐野晴太君の「ぼくは歩く」、中学校の部は山梨英和3年の川口薫さんの「祖父と私」が選ばれた。2人の作品は中央審査に進む。県審査の表彰式は11月9日に同支局で行われる。最優秀賞の2作品と喜びの声は後日掲載する。

今年小学校高学年の部に33編、中学校の部には219編の応募があった。小学校低学年の部は応募がなかった。

小学校高学年の部で最優秀の県教育長賞に選ばれた佐野君の作品について、県教育委員会義務教育課の望月陵指導主事は「毎日歩く通学路の自然を素朴に描きながら、どこか物語の雰囲気も感じさせる。表現も工夫されていておもしろい」と称賛。山梨学院小6年の

佐藤栄君の「食物アレルギー」も高い評価を得て入賞した。

中学校の部で最優秀の県知事賞に輝いた川口さんの作品に対しては、中條学・読売新聞甲府支局長が「祖父という身近なテーマでありながら、複数の視点で書かれており、先を読みたいと思わせる文章だった」と評価した。西日本豪雨で被害を受けた岡山県倉敷市真備町をボランティアで訪れた体験を書いた、北杜市立甲陵中1年の野村友君の「真備町と囲碁大会」も入賞。同課の小林知子指導主事は「実体験に基づいた説得力がある」と話した。

入賞者は以下の通り（敬称略）。

【小学校高学年の部】▽県教育長賞 佐野晴太（身延）▽読売新聞社賞 佐藤栄（山梨学院）、深沢柚希（同）、両角月那（身延）

【中学校の部】▽県知事賞 川口薫（山梨英和）▽読売新聞社賞 斎藤はるひ（甲陵）、野村友（同）、松住祐里（山梨大

付属）、吉原和志（駿台甲府）

【審査員】

望月陵（県教委義務教育課指導主事）、小林知子（同）、中條学（読売新聞甲府支局長）

【主催】読売新聞社

【後援】文部科学省、県教委

委

【協賛】JR東日本、JR東海、JR西日本、日本テレビ放送網

【協力】三菱鉛筆